筆山

第40号／2006年7月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報　　編集人/西岡 恒憲（41回）

編集室：〒106-0032 港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 編集委員 鶴和千秋（41回）
TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201 E-mail:tsuruwa@rsg.gr.jp

関東支部ホームページ：http://www.tosako-kanto.org/

6月10日に平成18年度土佐中・高同窓会関東支部総会・懇親会が霞ヶ関ビルで開催されました。

忘年の交わり

29回生　野村京生

同窓会幹事請負業に関する報道を耳にした。幹事を引受ける者が少ないところから生まれた商売という。還暦を過ぎた者の同期会などには好評らしい。旧交を温めたいが、世話役はしたくないというのである。

人は、他人と交流して生きている。ショウペンハウエルは「孤独はすべて優れた人物の運命である」と言うが、孤独は苦痛だ。「村八分」を見ればよい。孤独を愛し、耐えることのできるのは、特別の人だ。会社を離れると、同期会に出席したくなるようだ。

人は、各々皆違っている。違っているだけに、その結びつきから合金のような新しいものを産むようだ。古典では、「むすび」に「産霊」という字を当て嵌めている。縁結びは新しいことの生ずる典型だ。企業において異業種交流が進められているのは、畑違いの業種の付き合いが、新しい創造の機会と捉えられているのだろう。

ところで、世代間の断絶ということがある。断絶は、スタートがゼロ地点となる。連続は、先達の進んだ地点より出発できる。どちらがいいかは明白だ。「忘年の交わり」という有名な言葉がある。年令を忘れて、地位や身分を抜きにして、裸の付合いをするという意味である。若者は経験からの智恵を、年寄りは瑞々しい感性を吸収するべきであるというのである。この意味で、世代間の交流が望まれよう。ただ、人の交流は利害が絡んだり、立場が異なったり、面白くないことが生じたりして簡単ではない。永続させるには、努力が必要なようだ。

土佐高卒業生の同期会は、結構行われているようだ。各期相互の交流もある。しかし、関東で世代間にまたがるものは、総会、一木会、はちきん会などに限られる。総会の幹事は、卒業回の下一桁の数をもとに選ばれ、企画・運営をするようになった。苦労も多いだろうが、忘年の友を得ることができる。この出会いが大きな財産となろう。

平成18年関東支部総会・大懇親会

平成18年度土佐中学・高等学校同窓会関東支部総会及び大懇親会は6月10日（土）霞ヶ関ビルの東海大学校友会館に於いて開催されました。三〇〇名余の同窓生が参集し盛大に挙行されました。

母校から池上武雄校長先生をはじめ、同窓会本部・各支部から多数のご来賓にお越し頂きました。

今年の記念講演は大橋一章早稲田大学教授（36回）の「仏教伝来に見る日本人の特質」と題する講演でした。仏教美術研究の第一人者で仏教伝来に見られる我等の先祖の行動パターンを知り、日本人の本質に迫るお話を同窓生一同熱心に聴講いたしました。

今年は6の回生（16、26、36、46、56、66、76）の同窓諸君による総会・懇親会の運営がなされました。

大懇親会

司会は76回生の森啓さん

泉谷支部長の挨拶と来賓紹介

鏡割り

16回生吉澤さんの音頭で乾杯

↑今年卒業の81回生を壇上に集めエールを送る

↑6の回生から7の回生への幹事引継ぎ式。来年は宜しく！

関東支部活動報告

このたび、関東支部の泉谷支部長、市川幹事長ほか役員の方々からの柔和ながら「ノーは有り得ぬ」との「命令」により、図らずも事務局長を拝命致しました49回生の二宮潔でございます。

席上「新事務局長はニコニコとご愛嬌で本部・各支部との一層の融和にあたって頂くことで、あとは私たちにお任せ下さい。」というU・S・K女史役員の心強い援護射撃を頂いたと勘違い？、まんまと「はちきんトリオ」の口車に乗ってしまったのが運のつき。泣く子も黙る「元祖」事務局長の岩村康生さん（41回）、お人柄と気遣いの良さでは右に出る者無しの二代目事務局長、鶴和千秋さん（41回）そして、別嬪で心優しく段取り上手の三拍子揃った三代目事務局長の金澤由里さん（55回）の後任に、この「いごっそう」の私では、とても御三方が脈々と築かれた関東支部事務局長の重責を担えるものか、ちくと心穏やかならぬものがございますが、そこは従来通りの自然体で参りますので、皆様どうかお手柔らかにお願いします。

今年の土佐中・高等学校同窓会関東支部の役員は左記の体制でまいります。よろしくお願い申し上げます

支部長
泉谷良彦（29回）　留任

幹事長
市川直介（53回）　留任

事務局長
二宮　潔（49回）　新任

副幹事長
山中和正（24回）　留任
佐々木泰子（33回）　留任
鶴和千秋（41回）　留任
上野典子（51回）　留任
山渕玲子（63回）　新任
町田憲昭（67回）　新任
小松岳志（70回）　新任

会計監査
野村京生（29回）　新任
森木隆裕（59回）　留任

会計
金澤由里（55回）　留任

常任幹事
名簿委員長
川上　司（52回）　留任
筆山編集長
西岡恒憲（41回）　留任
ＨＰ編集長
筒井康賢（41回）　留任
総会世話役
西森さと（57回）　留任

顧問
曽和純一（16回）　留任
宮地貫一（21回）　留任
山本高敬（25回）　留任
浅井伴泰（30回）　留任
溝渕真清（32回）　留任
大石和男（40回）　留任
岩村康生（41回）　留任

事務局長就任のご挨拶

二宮　潔（49回生）

さて、ご挨拶はこの程度でお許しを願い、この半年間にわたる80回生戸田浩司君（高知大教育学部2年・野球部所属／土佐中・高野球部ＯＢ）の支援並びに『骨髄バンク8万人登録運動』について当初より蔭ながら応援させて頂いた同窓生の一人として、誌面をお借りして皆様に経過報告を致します。

先ず、肝心な直近の戸田君のご様子をお伝えしておきます。常日頃、同窓会関東支部ＨＰをご覧の方々はご存じのことでしょうが、戸田君は昨年9月にＥＢウイルス感染による血液腫瘍を発症し、長らく高知大学医学部付属病院に入院（今年2月初旬に大阪の病院に転院）、根治治療としての造血幹細胞移植（骨髄移植）のドナーが見つかるのを待ち続けたのですが、彼の血液と完全一致する白血球の型（ＨＬＡ）を持つドナーがこの2月迄には見つからず、現段階で最善の治療処置との主

治医／医師団のご判断により、弟さんの末梢血の造血幹細胞を移植するという方法で、戸田君は2月28日に骨髄移植を受けました。

その後の経過は、支援会ＨＰの「坂本レポート」にて適宜ご報告されておりますように、提供者の弟さんは至って順調、戸田君自身も様々なＧＶＨＤ（拒絶反応）に耐えながら移植後2ヶ月を経過。直近の本人からのメール（4月21日付け）によれば『やっと今日、山を越しました。神様は最後まで楽にはいかせてくれませんでしたが、なんとか乗り切りました。皮膚のＧＶＨＤが落ち着いてきて薬を減らしていってます。大量の薬の副作用などで、ここ数日は腹痛や熱で苦しかったですが、がんばれました。今日の検査結果もよくなってきているので、これから薬を減らしていって問題なければ退院に近づくのではないでしょうか。まだお腹の調子は悪く食欲もありませんが、次第によくはなると思います。何もこれから起こらないことを祈るばかりです。』とあります。そして「坂本レポート23」は『皆さん！彼は頑張りました。この凄まじい艱難を克服したのです。私たちの戸田浩司は、これから少しづつ楽になっていきます。見守ってください。彼のこの険しい闘いの最終的な勝利を、必ず皆さんとともに喜び合う日が来ることを信じて。そして皆さん！浩司の体にこれ以上の異変がないことを、心から願いましょう。』と締め括っております。

さて、私が戸田君に関するただならぬ情報を知ったのは、

昨年末、師走5日の朝でした。それも同窓関係者からの知らせではなく、野球狂の私が母校野球部をキーワードに知り合った友人（宮本裕司さん）からのメールによるものでした。そこには★全力疾走！土佐高校を応援します★というヤフー掲示板が貼り付けてあり「昨年卒業したエースの戸田君（現高知大学1年生野球部）が骨髄移植の必要な病気に罹っています。血液型が合うドナーを探しています。可能な方は骨髄ドナー登録をお願いします。・・・」（12月3日投稿）と書かれてあるではないですか。魂消ました。

早速、母校の恩師（野球部副部長の小島哲雄先生）や野球部ＯＢの長男（79回生・慶大野球部合宿所）に連絡を取り、その事実と状況を確認したのが、私にとっての蔭なる「戸田投手救援活動」の始まりでした。みんなに助けを求める『戸田君からのメッセージ』を読んで涙がこぼれました。「これはどんなことがあっても、助けんといかん！このまま放っておけるものか。」

連日連夜、会社と自宅のパソコンに向かい母校の坂本隆先生（47回生）、千頭裕事務（58回生）、同窓会本部の北村恵美子副会長（47回生）をはじめ、同級の49回生、各地の支部役員ほか親しい仲間でメールアドレスを知る方々との「戸田君支援」に関するメール交信を重ねていくうちに、日を追って戸田君自身の様子はもとより、地元における母校・同窓生並びに高知大学関係者を中心とする支援者、支援組織の活動が活発化する様子が手に取るように解かってきました。

真っ先に協力を申し出て下さったのが、長男の六大学野球を通じて親しくなったばかりの下川高士・万左子ご夫妻でした。すぐさまご夫妻が経営なさっている学習塾「ブルカン塾」（品川区大崎）で塾生・父兄に戸田君支援のビラを配って「支援の輪」を拡げることに取組んで下さったことには、大変心強く感激しました。併せて私が先ず取り組んだことは、骨髄移植推進財団（骨髄バンク）にアクセスし、この世界の一般常識を修得することでした。この件では骨髄バンク／広報渉外部の遠藤允さん（元・新聞記者でノンフィクション著書多数）からのご紹介を得て読んだ『微笑がえし～白血病とたたかう家族たちの絆～』（あけび書房）ほか2、3冊の本が大変参考になりましたし、その後も遠藤さんには度々お世話になっております。

また、ちょうど忘年会や新年会など集まりも多い冬休みシーズンであったことも幸いでした。筒井康賢さん（41回生・同窓会関東支部ＨＰ編集長）が「同窓会関東支部ＨＰ」に戸田君支援に関する様々な情報と共に、各学年の新年会・クラブのＯＢ会等の場所・日時を随時掲載して下さいました。地元では橋本雅彦君や古谷博君ら同級生たちが会合場所のお店にポスターやビラを届けに走ってくれました。一方、母校の『戸田浩司君支援会』坂本事務局長に「支援会のＨＰ」を制作指南して下さったのは、ほかならぬ筒井編集長と山口喜久先生（現在の支援会ＨＰ編集長）でしたし、その後もずっと関東支部ＨＰのトップには『戸田浩司君支援会ＨＰ』へのアクセス表示が大きく載っております。母校の千頭さんに対しては、いま思い返すと、自分でもゾッとするほど強引なお願いを数々申し上げたことを深く反省しております。例えば「やりたいのは山々ですが、人手も時間も無くコピーも同封ももう間に合いません。」という千頭さんに「生徒でも同窓生でも動員をかけて、中・高全員の通知票や振興会便りに『戸田君支援の呼びかけ文』をぜひ同封しよう。」と無理難題を申しました。この類いの強引な要請は一つや二つではなかったのですから、さぞ千頭さんも「頭」に来たことでしょう。しかしながら、結果的にはそれらの無理を全て聴いて実行して下さいました。年末年始の放課後そして冬休みには連日、千頭さんと先生方の陣頭指揮のもと、在校生・父兄・教職員・同窓生たちに加え高知大学の学生諸君が支援会事務局の計画に基づき、着々とポスター1万部、支援・運動呼びかけ文（ビラ）10万部を全国の主要大学、団体・組織へ発送する作業や、中央公園～帯屋町筋の大行進の準備に奔走されました。こうした作業の強力な推進役が村山隆司さん（59回生）と山口先生（前述）、鎌田圭子先生（47回生）はじめ教職員の皆さんでした。

もちろん坂本先生に至っては正に「褌先生」の真骨頂、面目躍如とでも言うのでしょうか、池上校長先生（28回生）の片腕として、ほかの誰も敵わぬ着想力・計画力・交渉力・実行力そして強いリーダーシップを発揮され、支援者みんなのベクトルを一つに束ね、教え子である戸田君支援そして12月29日に高知大学・土佐中・高より「緊急アピール」として全国に向け発信した『骨髄バンク8万人登録運動』を発案、その後も池上校長（支援会会長）と共に常に支援活動の先頭に立って、運動を継続推進して下さっております。既に何度も実施された中央公園～帯屋町筋の大行進の模様は『戸田浩司君支援会ＨＰ』に掲載されております。

これら全ての活動を当初より傍らでしっかりと支え続けて下さっているのが坂本先生の同級生、「肝っ玉かあさん」の北村副会長です。北村女史のご子息は80回生で戸田君の同級生。『戸田浩司君支援会』はこの47回生「坂本・北村コンビ」を抜きに語ることは出来ません。

12月、1月、2月・・・『戸田浩司君支援会』並びに在校生・父兄・教職員・同窓生

ほか多数の善意の方々による様々な支援活動が実を結び、地元マスコミ（高知新聞、ＮＨＫ高知支局）はもとより、全国一般各紙やスポーツ新聞にも大きく採り上げてもらいました。この背景には母校野球部とご縁の深い万代隆さん（共同通信社）のご尽力があったことを申し添え、同氏に深謝致します。高新では年明けから『骨髄移植の推進』をテーマに特集連載も始まっているほか、ＮＨＫほか複数のマスメディアでは『戸田浩司君支援並びに骨髄バンク８万人登録運動』をずっと継続取材して下さっているようです。

春季キャンプを控えた広島東洋カープ天野浩一投手（四国学院大）、ＷＢＣ日本代表への参加を控えた阪神タイガース藤川球児投手（高知商）それぞれから戸田君に対するお見舞いや激励、読売ジャイアンツによるよみうりランド／宮崎キャンプ地での「戸田浩司君支援表明（ビラ配り）」と「ドナー登録会」の開催、四国アイランドリーグ（高知ファイティングドッグス）や横浜Ｆマリノス河合竜二応援団、ＮＰＯスポーツオフィス・ワン（広島）、地元高知市の少年野球チームの皆さんによる支援活動、そして地元高知のスーパーバンド（スーパーマーケットに勤める２人の女性シンガー、ドラとゴッチ）による『骨髄バンク８万人登録運動』応援ソング「笑顔のゆくえ」とＫビールのＣＭソング♪まけるな、まけるな、まけるなよ♪の戸田君へのライブ・プレゼント。このプレゼントの仕掛け人も支援会メンバーの村山隆司さん（前述）でした。嶋村徳方さん（53回生）は商工会議所など関係機関に働きかけ、高知県交通・土佐電鉄の停留所や商店街・銀行・医療機関・官庁出先機関など至る所に『戸田浩司君支援並びに骨髄バンク８万人登録運動』のポスターを貼らせて頂いたり、ビラを置かせて頂いたり出来るようにして下さいました。

清谷知郎さん（52回生）は、いち早く様々な新聞の投稿欄に『戸田浩司君支援並びに骨髄バンク８万人登録運動』のことを訴え各紙で取り上げて頂くと共に、ＮＨＫラジオ（高知支局）に出演し支援を呼びかけて下さいました。同時に日本高校野球連盟（高野連）に支援要請の手紙を書き、高野連理事であられる永野元玄さん（29回生）より高野連トップに実情をご報告頂きました。更に土佐高野球の熱烈なファンでもある清谷さんは沖縄県のＧ高校、石川県のＳ高校、東京都のＮ高校、北海道のＭ高校・・・と高校野球の監督に支援要請の手紙を出し、それぞれの高校野球部の支援表明を頂き、支援ビラと骨髄バンク発行の『チャンス』（ドナー登録の手引き）を多数発送して下さいました。同じく52回生の天造豊彦さんは新春に名古屋で行なわれた中部地域高知県人会パーティのステージで、来賓の江本孟紀氏（高知商～法大～プロ野球）に『戸田浩司君支援並びに骨髄バンク８万人登録運動』への支援表明をして頂いたり、赴任先の山形で同県の骨髄バンク推進協議会の方々とも連繋して下さいました。永野元玄さん（前述）は、高知市で開かれた小学生から中・高・大学生までの軟式・硬式野球の指導者会議でご講演された際に『戸田浩司君支援並びに骨髄バンク８万人登録運動』のことをご紹介下さいました。

今では、支援会ＨＰには全国各地より骨髄移植経験者、骨髄移植を待ち望む患者さんやそのご家族、骨髄提供経験者、ドナー登録者、これからドナー登録をしようとする方、ドナー登録運動を展開している方、これから運動に参加しようとする方・・・様々な方々から戸田君への応援メッセージが頻繁に自由投稿されるようになっています。５月14日（母の日）には、高知市のリブロードで高知県（健康福祉部）と高知県骨髄バンク推進協議会（代表 依光聖一さん・42回生）、戸田君支援会の合同で「ドナー登録会」が開かれ、41名のドナー登録があったそうですし、懸案であった日赤献血車でのドナー登録が可能となり、献血を呼びかける傍らご本人に意思確認のうえ、頂いた血液の一部を使ってドナー登録を行うことが出来るようになったそうです。この懸案の解決に蔭でご尽力下さったのは、日赤・高知県血液センターの高木基晴さんです。

これ以上は割愛しますが、もう挙げれば限り無いほど、短期間に様々な支援活動が展開され、これらの活動は全て、戸田君の切実で強固な意志力に突き動かされた方々による心からの応援行動です。戸田君とご家族にとっては、さぞ勇気と信頼そして大きな励ましとなっていることでしょう。

骨髄移植推進財団（骨髄バンク）の調べによると、高知県における今年４月の１ヶ月間のドナー登録者数は25名（昨年同期９名）でした。『骨髄バンク８万人登録運動』が始まってからの推移を見ると、12月一四九名、１月一四五名、２月91名、３月19名となっており、このところ「頭打ち」とは言え、年間を通すと目を見張る結果となっています。昨年度（昨年４月～今年３月）の合計は五一五名ですが、一昨年度が71名でしたから、なんと７倍以上もの大幅増となっています。

この４月末現在の高知県内のドナー登録者数は一四九〇名にのぼっており、全国（二四五二七三名）の０・61％です。一見少なそうですが、昨年４月現在（高知九八九名、全国二〇六一六〇名）は０・48％でしたから、増加率は「全国一」だそうです。この数字は、戸田君支援の運動が始まる前の昨年11月現在と12月以降を比較しても驚異的であることが分かります。11月

までは平成4年1月からの13年11ヶ月間をかけて一〇七四名でしたが、この5ヵ月間だけで実に四一六名を記録しました。1ヶ月当たりの登録者数を見ると、運動前が6・3名だったのに対し、運動開始後は83・2名にも達しています。また、「30万人目標」に対して人口割りで算出した「都道府県別目標数」がありますが、3月末のデータによれば高知県は目標一七一三名に対し登録数一四七〇名で達成率85・8％ですので、昨年11月末（運動前）の64・3％に比べ、ここでも急激な伸びが歴然としています。昨年度だけの達成率を見れば、堂々の9位となりました（ちなみに、目標を一〇〇％以上達成しているのは、達成率上位から見ると沖縄、福島、新潟、島根、石川、岡山、北海道、富山、鳥取、佐賀、京都の11道府県です）。全国平均が71・3％ですから、高知は運動の成果で平均を上回っており、今後も急増が続けば、一〇〇％達成の日がより早く近づくことでしょう。なお、全国目標総数の30万人突破まで五五〇〇名足らずです。過去3ヶ月間で九〇〇〇名の伸びを示しておりますので、全国各地の登録運動が活発化し、このままの勢いが続けば、あと2年を待たずに目標30万人を達成することも可能な状況です。

発症後すでに7ヶ月、戸田君は4月13日に20歳の誕生日を迎えました。「移植後一〇〇日間の生存率は概ね50％・・・」私たちはこの可能性に彼の生命への望み・将来の夢を託しました。戸田君は『もっともっと生きたい！絶対に負けない、諦めない！』という強固な信念を持って、繰り返し彼を襲う焦燥感とプレッシャーに立ち向かい、今日もGVHD（拒絶反応）と闘い続けています。これまで戸田君の壮絶な闘病生活を見守って下さった皆さん、共にこれからも戸田君を見守り、静かに応援していきましょう。そして戸田君が『笑ってみんなにありがとうを言って帰れる日』を心から願おうではありませんか。

過日、坂本事務局長より『戸田浩司君支援会』の今後の方針について、以下のメッセージが発信されましたので、抜粋してご報告しておきます。

『・・・浩司君同様1日でも早く一致したドナーが現れることをお待ちの患者さんの命の望みをつなぐためにも、これまで同様私たち「戸田浩司君支援会」は「8万人登録運動」を継続して参りたいと思います。高知から始まった「骨髄バンク8万人登録運動」のうねりを、さらに確かなものとして、是非8万人到達まで地道に取り組んでいきたいと考えます。・・・』

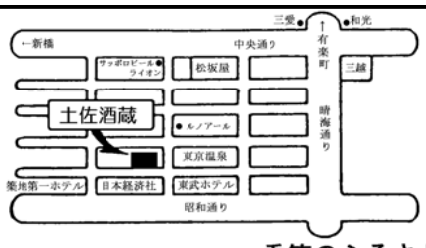
今回の『戸田浩司君支援並びに骨髄バンク8万人登録運動』は、母校における情操教育に強い示唆を与えるインパクトの大きい出来事であったと思います。日本で骨髄移植を必要とする患者さんは年間二〇〇〇人以上、内ドナー候補者が見つからない患者さんが約2割にものぼると言われています。ドナー登録運動が中学・高校、特に大学生の間に根付くと共に、産業界・企業・労働組合などにおける「社会貢献活動の一環」として、もっと拡がりを持って浸透すれば、大半の患者さんたちを助けることに繋がるのです。一日も早く「骨髄バンクへのドナー登録」が献血運動と同じように「健康な人（18～54歳）なら当たり前」の世の中にならないものかと痛切に感じる今日この頃です。

TONTON　カラオケ・スナック

幸田　みどり

（土佐女子出身）

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-46-7 第三平沢ビル7F
TEL 3205-3177　（西武新宿線北口前）



季節のふるさとの味

土佐酒蔵

銀座7－12－4 友野本社ビルB1
電3545-3855　銀座第一ホテル通り

[母校及び同窓会本部・各支部一覧表]

土佐中学・高等学校　事務局　千頭裕　〒780-8014　高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)088-833-4394(FAX)088-833-7373(E-mail)tosa@tosa.ed.jp(HP)http://www.tosa.ed.jp/index.html

土佐中学・高等学校同窓会本部　会計幹事　千頭裕　〒780-8014　高知市塩屋崎町1-1-10
(TEL)088-833-4394(FAX)088-833-7373(E-mail)tosa@tosa.ed.jp(HP)http://www.tosaobog.com/

土佐中学・高等学校同窓会北海道支部　事務局長　島村昭範　〒060-0062　札幌市中央区南2条西1丁目3番地北専ビル9F
(TEL)011-893-3509(FAX)　(E-mail)shima49n@yahoo.co.jp　(株)富士メガネ　窪田社長気付

土佐中学・高等学校同窓会香川支部　事務局長　武山正人（担当：大石浩）〒761-0113　高松市屋島西町1850-1 四国電力(株)
(TEL)070-5750-2120(FAX)087-841-7809(E-mail)ooishi11737@yonden.co.jp

土佐中学・高等学校同窓会広島支部　事務局長　山崎迪子　〒732-0062　広島市東区牛田早稲田1-24-7-210
(TEL)082-227-2656(FAX)082-227-2656(Email)myamazaki@dion.enjoy.ne.jp(HP)http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/

土佐中学・高等学校同窓会関西支部　事務局長　原田和人　〒530-6001　大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー1F アリコジャパン内
(TEL)090-1073-7822(FAX)　(E-mail)harada73@hotmail.com(HP)http://www.tosa-ko.org/kansai/

土佐中学・高等学校同窓会東海支部　事務局長　神宮美恵子　〒468-0075　名古屋市天白区御幸山1201 御幸山ﾊﾟｰｸﾏﾝｼｮﾝ B-301
(TEL)052-837-5834(FAX)　(E-mail)jjingu-m@crux.ocn.ne.jp(HP)http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/

土佐中学・高等学校同窓会関東支部　事務局長　二宮潔　〒100-8222　東京都千代田区丸の内1丁目6番5号丸の内北ロビル
(TEL)03-5223-7719(FAX)03-5223-7619(E-mail)naosuke.ichikawa@mhmjapan.com　森濱田松本法律事務所弁護士市川直介気付

母校だより

学校長　池上武雄（28回生）

今年は殊のほか雨が多く、早くも梅雨に入ったかの感があります。関東支部の皆々様にはお変わりなくお元気でお暮しでしょうか。

◇新校舎建築について

新校舎建築計画検討委員会から平成17年12月校長宛の答申を受けて、更に細部にわたり検討をお願いすべく、岡村甫氏（32回生）を座長とする設計・発注関係専門分科会と、岡内紀雄氏（34回生）を座長とする資金関係専門分科会を新たに立ち上げました。本校にとって最適な設計・発注のあり方や、最適な資金計画の構想についてのご提案をいただけるよう検討会を重ねてくださっております。

新校舎建築プロジェクトの概要は、

一、塩屋崎町一丁目の現在の敷地で全面的に建て替える。

二、校舎のほか、大体育館、小体育館、プールを含み、規模は一七〇〇〇㎡程度（プールを除く）を予定、別に一五〇〇台分程度の駐輪スペースを確保する。

三、校舎部分は免震構造を採用する。

四、工期は2カ年程度を予定。

五、新校舎建築に関する総事業費は40億円以内とする。

六、本プロジェクトはＣＭ契約形態で行う。（注）ＣＭ（Construction Management）方式とは、発注者の立場に立って、その補助者であるＣＭＲ（ＣＭマネージャー）が設計・発注・施工に関連する各種の管理業務の全部または一部を行うもの。分離発注方式を質的・量的に拡大した形で、工事種別ごとに専門工事者等に別々に発注する方式。長所としては、品質・技術と競争力に優れた専門工事業者を発注者側で選定でき、工程・工期や工事費等につき透明性が確保できるなどです。

次にＣＭ企業の選定手順と具体的方策については、すでに新聞広告（高知新聞及び業界紙）にて公募を行い、入札資格事前審査で応募7社から対象企業を3社に絞ったところです。この3社によるプロポーザル型入札方式（業務提携書を出してもらい、業務を委託する上で最も適した人〈チーム〉を選ぶ方式）で、プロポーザル（提携書）を提出してもらい公平に評価して6月中に最終決定する予定です。

◇大学入試結果について

本年度は、センター試験の平均点が本校でも全国平均同様に30点程上昇したことから難関大学への強気の受験がなされました。その結果、現役生の合格率は65・0％（昨年68・4％）と目標とする70％を下回りました。しかしながら最難関大では、24名（東大6、一橋4、東工4、京大10）（昨年は12名）と昨年を大きく上回ることができました。また難関10大学（旧帝大7校、東工、一橋、神戸）でも54名（昨年37名）の合格者を出しました。なお国公立大医学部医学科の合格者は15名（昨年14名）でした。来年度こそはかねてお約束しました東大、京大それぞれ2桁合格が実現できるものと期待しております。

◇より活力ある文武両道の実現について

本年度の県高校体育大会には、本校から三四五名（参加49校中最多人員）が18種目に参加し、よく健闘いたしました。団体優勝は、登山部（3年連続、昨年のインターハイは全国5位）のみにとどまりましたが、2位にはハンドボール男子、剣道男子、学校対抗自転車、テニス女子が入り、ベスト4には、ハンドボール女子、バスケットボール男子、柔道男子、バドミントン男子、弓道男子が入りました。また個人では、陸上で男子一六〇〇ｍリレー、8種競技、空手の組手、自転車4㎞チームパーシュート、4㎞速度競争、ポイントレース、テニス女子シングルスでそれぞれ優勝を飾りました。6月16日からの四国大会、8月1日からの全国インターハイ（大阪府）での活躍が期待されます。

平成5年のセンバツから遠ざかっております野球部の甲子園復活につきましては、本年19名の精鋭が県内外及び土佐中から入部して参りました。昨年度県中学選手権大会の優勝投手を含め、投打に大いに期待できるメンバーばかりです。現在部員は61名で、籠尾先生時代のメンバー不足が嘘の様な状況です。三木部長、高多監督を中心に甲子園復活を目指して頑張っております。多くの同窓生がアルプス席にご参集いただけるのも近いものと考えております。ご注目下さい。

また、高校野球、サッカーの練習場としてかねてより計画を進めてきました「長浜グラウンド」の造成起工式を4月6日に行い、工事が始まりました。場所は、北竹島町の新グラウンドから南へ、六泉寺を経て長浜に抜ける高知桂浜道路（有料）の中間、料金所の西上の山中です。完工予定は平成19年3月です。広さは野球、サッカー併せて三八〇〇〇㎡です。

◇高1生修学旅行への協力のお願い

今年も11月には、高1生の修学旅行でのコース別研修を行います。関東地区の同窓生の皆様には例年格別のご支援、ご協力を賜り大きな成果をあげておりますことに感謝申しあげております。何とぞ本年もよろしくお願い申しあげます。

梅雨入りの時節柄、皆々様にはご自愛のうえますますのご健勝、ご活躍を祈念申しあげ近況ご報告といたします。

（平成18年皐月）

8/12[土] 開催決定

企画進行中!

2006年度 土佐中・高等学校 同窓会総会

「2006 ホーム カミング デー」

同窓生の皆さまに毎年ご好評いただき、今年で3回目の母校での開催となります。この日一日、誰もが土佐中・高校生に戻れるような企画を予定しております。

プログラム

- 同窓会総会
- 記念コンサート
  [ブラスバンド部〈現役・OB〉]
- 恩師による特別授業
- 同窓生による特別講演
- 学校食堂開放

参加記念品

- オリジナルうちわ [抽選付]
- オリジナルCD
  [校歌・応援歌他収録]
- オリジナル缶バッチ

グッズ [販売]

- オリジナルTシャツ
- オリジナルタオル
- オリジナル携帯ストラップ

＊懇親会:得月楼

事務局／千頭　裕(58回生)

2006 HOME COMING DAY

■2006年度総会について

今年で、3回目を迎える母校での「ホーム カミング デー」方式による同窓会本部総会は、懐かしの恩師の授業の時間と「ようこそ先輩」風に卒業生による特別講演等を企画しております。詳細につきましては、準備が整い次第ホームページ等で、ご案内させていただきます。

また、ご好評いただいております、記念グッズは、母校現役ブラスバンド部の演奏による「校歌・応援歌」等を収録したCD(2006年度限定版)、野球部が甲子園に行った際にも使える願いも込めて、TOSAのマーク入り帽子、記念うちわ等をご用意して、皆様のご来校を心よりお待ちいたしております。

なお、参加費は2,000円を予定。学校食堂もこの日特別に営業をお願いしております。食事代については別会計となりますが、懐かしのニコニコパンもあるかも…。

〈このような企画やビジュアル表現につきましては、59回生の村山隆司さんにいつもご協力をいただいておりますこともあわせてご紹介させていただきます。〉

■同窓会名簿について

お陰様で、同窓会名簿の発行、ヤグラグラフィティの製作も無事終えることが出来ました。ご協力をいただきました皆様方に、この場をお借りいたしまして、あらためてお礼申しあげます。

また、個人情報の取り扱いの問題がクローズアップされている今日ですが、5年に1度発行の本会員名簿こそ全国各地、各界に雄飛される同窓の皆様の動静をお伝えするものでもあります。事務局といたしましても個人データの取扱には、今まで以上に細心の注意をはらっていきます。

もし、まだお申し込みをされていない方がおいでましたら、本部事務局までお問い合わせ下さい。

最後に、同窓会活動の原動力としてご協力、ご活躍いただいております関東支部の役員、会員の皆様に感謝とますますのご発展を祈念して筆を置きます。

北海道支部だより

幹事　有岡佐和（78回生）

関東支部の皆様こんにちは。北海道支部の78回生・有岡佐和と申します。昨年6月に札幌で北海道支部設立総会を開催して、早くも1年が経ちました。たくさんの皆様にご参加いただき、涼しい北海道の夏に、1部屋だけ暑い高知県が移動してきたような、気兼ねなく土佐弁が飛び交う土佐弁ワールドを楽しませていただいた記憶が鮮明に残っています。

設立総会は、YOSAKOIソーラン祭り期間中の開催でしたが、実は私はあの日、総会の直前まで大通公園で踊っていました。よさこいといえば高知が本場ですが、恥ずかしながら、私は高知のよさこい祭りに参加したことがありませんでした。けれど、そんな私が、大学入学後、「おもしろい人がいっぱいおるなぁ。」と思って入ったサークルが、たまたま土佐高出身の先輩が作ったYOSAKOIソーランサークルだったのです。これをきっかけに、すっかり魅力にハマってしまいました。

大学1年生の年には、高知のよさこい祭りにも参加しました。その時、チームのメンバーは、高知の人の温かさを感じ、全員が声をそろえて、「また来たい！」と言って帰りました。こんなステキな高知県に生まれたことを改めて嬉しく思いました。

よさこいを通して全国に友達が出来ましたが、全国どこの学生にも高知県といえば、酒・よさこい・坂本龍馬・鰹といったイメージが強いようです。でもやはり1番に出てくるのはお酒です。これは、大学に入ってはじめて実感しました。

最近の支部の活動としましては、数名の幹事の先輩方と美味しい北海道料理を囲んで、お酒を飲みながら、昔の高知のお話や野球のことなど、土佐弁でいろいろなお話をしながら、楽しませていただいております。

春から大学4年生になり、残り1年の北海道での学生生活を満喫すべく、最近は旭山動物園や羊が丘展望台、札幌時計台、小樽運河など北海道の定番観光地巡りをしております。改めて北海道の魅力を感じるとともに、旅の途中に姉妹都市が多くあることを知ったりして、北海道と高知県の意外な結びつきを感じています。

そんな北海道支部の今年の総会は、皆様より北海道らしい場所での開催のご希望を多くいただきましたので、札幌市を飛び出して、支笏湖畔の丸駒温泉旅館にて、秋の雄大な紅葉や天然露天風呂と、皆様に北海道らしさを満喫していただけるよう只今準備いたしております。

また当日は、窪田幹事長（38回生、株式会社富士メガネ社長）による、23年にわたり海外難民キャンプに直接出向き、現地で視力検査を行った上、10万個の眼鏡を難民に寄贈し続け、第1回朝日企業市民賞及びUNHCR特別賞を受賞しました「富士メガネ海外難民眼鏡寄贈ミッション」についての講演を予定致しております。ご期待ください。

ぜひこの機会に同窓生との懇親を深め、秋の北海道を満喫しにいらっしゃいませんか？

関東支部の皆様のたくさんのご参加をお待ちしております。

東海支部だより

幹事長　村山文世（41回生）

関東支部の皆様。ごぶさたいたしております。

東海地方の近況をお知らせいたします。昨年はセントレアの開港、愛・地球博（愛知万博）の開催で盛り上がりましたが、今年も依然として中部地区の元気・景気は好調です。

最近ナゴヤ・カルチャーについて色々な角度から分析がなされていますが、その中で興味あるものの一つに、「愛知・名古屋の組み合わせの文化」があり、日本全国、世界中に発信しています。特に「ハイブリッド（異種交雑で、新たな価値を生む）」が最たるものです。

例えば、33回生久保地支部長による「トヨタのプリウス（電気モーターとガソリンエンジン）」。ハリウッドの米アカデミー賞授賞式で、でっかいリムジンに代え、プリウスで乗り付ける、環境派のスターが近年は増えている。更には、「小倉トースト（あんことマーガリン）」、「大正琴（タイプライターと弦琴）」、「シャチハタ（ハンコとスタンプ台）」、「ラーメンフォーク（レンゲと箸・スガキヤ）」等々。いずれも「組み合わせの妙」で実はこのような中から巨大な産業が生まれるかもしれません。松下幸之助が作った二股ソケットがパナソニックの基礎を作ったように。

さて、東海支部最大の行事であります今年度の支部総会は、5月20日（土曜日）午後5時より名古屋駅東5分の所にありますホテル・キャッスルプラザで30名の参加者を得て、盛大に開催致しました。関東支部からは、24回生山中和正先輩にご出席いただき、活発な活動を伺いました。どうも有難うございました。母校からは池上校長先生にご出席いただき、土佐高校の元気な現役の最新の情報を、本部

神宮事務局長、筒井HP編集長、久保地支部長

からは40回生横田先輩、各支部からもご来賓のご出席をいただき元気な活動内容の報告を伺い、盛会のうちに終了いたしました。来年度も同じ時期（5月19日）に同じ会場で予定しております。

東海支部の役員に若干の異動がありました。既にご存知とは思いますが、HP編集人の41回生筒井氏が3年に亘る名古屋での任務を終えてつくばに、そして長年中部高知県人会でも活躍された、副幹事長の52回生天造氏が山形に転勤され、それに伴いご家族は高知に転居され、嬉しい事に御令嬢が無事土佐中2年に編入学を果たされました。多少寂しくなりましたが、今年度より新たに幹事に41回生利岡氏が就任して、支部会員一同で和気藹々と楽しんでおります。

地元、落合ドラゴンズは、今年こそ優勝をと、東の雄、実力の原ジャイアンツを追っておりますが、関西の雄、人気の岡田タイガースを無視するわけにもいかず、三つ巴の熱い戦いが続く事を期待しています。

最後に関東支部の皆様のご健勝と、益々のご発展を祈念して支部だよりとさせて頂きます。

関西支部だより

「みんなが土佐高の甲子園出場を待ち望んでいる」

幹事　片山保行（49回生）

尼崎市在住、49回生の片山です。2、3年前から、妻がひどい肩こりで近所で評判の整骨院に通っております。話を聞くと先生は高知明徳義塾野球部出身。いっしょに働いている二人も同様とのこと。

私のジョギングコースである尼崎市と西宮市を隔てる武庫川の河川敷にはいくつもの少年野球場があり、日曜ともなると白球を追う子供たちの元気な声が響きわたっています。その中で、ひときわ目をひくのが「尼崎北シニア」の中学生軍団です。使用球はもちろん硬球。人数はざっと見て50～60人。メイングランドではシートノック。回りでは、細かい連携プレーやティーバッティングなど、高校さながらの練習が繰り返されています。

なるほど、この子たちが、明徳、尽誠をはじめ遠くは九州、北海道まで甲子園目指して野球留学するのか・・・。少しでも甲子園出場の確率の高い高校に行く。甲子園で結果を残して、野球で大学に行く。あわよくばプロのスカウトの目にとまり、ドラフトにかかる。

高校から親元を離れ他県に行って甲子園出場を目指すことに、私は決して反対はしません。かく言う私も、35年前愛媛の片田舎から、純白のユニホームに憧れて土佐高の門を叩き甲子園を目指したひとりですから。ただ、私の場合、そこから先のことはユニホーム同様真っ白でしたが・・・。そんな私を当時新グラのレフト側にあった右文寮に案内してくださったのが佐藤キャプテン。現在の高多監督でした。

数年前、関西在住の野球部OBが集まり、住友金属を退職され母校に赴任される高多先輩の激励会を開きました。席上、「土佐高野球部OB会関西支部」を作ろうという話になり大いに盛り上がりました。しかし、残念ながらその年の夏に母校野球部に差し入れしたのを最後に、その後何もしないまま自然消滅してしまっています。同窓会関西支部では、29回永野先輩を筆頭に、42回竹下幹事長、56回原田事務局長、同じく56回岡崎君、69回福島君、72回棚倉君、そして私と、野球部の縦ラインで、微力ながら守備固めをさせていただいております。今年はなんとしても甲子園球場の地元である関西の野球部OBの団結を強め、母校野球部の甲子園受け入れ準備を整えたいと思っております。

高知の高校野球勢力図は、室戸、中央の台頭に加えて市商、学園の巻き返し。打倒明徳から群雄割拠の時代へと移りつつあるようです。池上校長先生の「最低6年に1回は甲子園出場」を目指して、高多監督、選手の皆さん、頑張ってください。全国の同窓生が、高校野球ファンが、そして何より甲子園球場が、土佐高の出場を待ち望んでいます。

広島支部だより

「鰹の季節」

幹事　山本紳（55回生）

この時期になると「目に青葉　山ホトトギス　初鰹」の句がいろいろな場面で登場する。昨今は魚の冷蔵輸送技術が発達し、ここ広島県でも初鰹を食することが出来るようになった。料理店やスーパーで「鰹祭り」なる企画もよく目にする。

私と鰹の出会いは30年程前、土佐高1年の春　下宿屋『はりまや荘』の夕食であった。尾道市出身の私はそれまで瀬戸内海の小魚はよく食べていたが、その当時　鰹は広島ではポピュラーではなかった。あったとしてもそれは高級魚として扱われていたと思う。

その鰹の刺身が下宿屋の晩飯に登場した。それは私にとっては少しオーバーだが人生の中で画期的なディナーとなった。赤身の刺身を見たとき何の魚かわからず、下宿のおばちゃんに問い、正体がわかった。食べると旨かった。と同時に瀬戸内海を渡り四国山地を超え南国土佐に来たのだと食を通じても実感したことを鮮明に今でも覚えている。以来、鰹は悪食の私の味覚にインプットされて自身の食文化を形成している。

初鰹は香で食べる。と高知の友人から聞いたことがある。粋なことを言うものだと思った。食べ物に関して喰いながら薀蓄を語るのは好きではないが、この言葉はいい。旬の

ものを食べることは当たり前なのだが、今それがおしゃれになったりファッションになったりしているように見え、残念に感じる。

さて、もうひとつ鰹について。代表的な料理に「たたき」がある。高知のたたきは厚く切ってにんにくのスライスと一緒に食べるが 喰い甲斐がある。鰹は「勝つ魚」とも書くようだ。「鰹のたたき」少々文字って、「敵をたたいて勝つ」とし 勝負事の前に験（ゲン）をかついで雄叫びをあげながら喰うのもどうだろうか。ご利益もあるに違いない。ステーキとトンカツを一緒に食べ「敵に勝つ」ではちょっと芸がない。

もうすぐ甲子園の夏の予選が始まる。『勝つ魚のたたき』を喰いもって、敵をたたいて勝つことを祈り、後輩にエールを送りましょう。祈再会於甲子園。乱筆乱文 ご容赦ください。（平成18年5月吉日）

香川支部だより

「道州制の行方」

幹事 大黒英男（46回生）

平成の大合併も一段落し、当支部がある香川県も43市町から17市町へと半分以下になりました。郷里高知県も53市町村から35市町村へと18減になりました。また、四国全体でも、二一四市町村から94市町村へと半減です。その結果、「四国中央市は、どことどこの合併だったかね。」「旧寒川町は、いまはさぬき市か、東かがわ市かどっち。」といった会話が、今もって交わされています。

こうした、軽微な混乱が収まりきらないうちに、一部では、次なる構想が議論されています。「道州制」です。関東にお住みの皆さんは、「そんなの四国州で、問題ないんじゃないの。」と、お考えの方が多いのではないかと思います。私も、そう思っておりましたが、若干、違った意見も聞くようになりました。徳島県の飯泉知事は、「関西に入ることも、徳島県の選択肢の一つだ。」と、新聞に談話を発表しました。また、ある中央省の四国局長は、「四国は一つ、というが、東京からみると、四国は一つひとつに見える。このままだと、中四国州の案も有力になるのではないか。」とも言っています。

また、「州のくくりはできても、活性化の案はあるのか。」「人口自然減・高齢化が著しい四国で、企業誘致等、従来型の地域活性化策は本当に有効なのか。」「四国は、全国に先んじて、自給自足型文明生活モデル（??）を提唱すべきである。」などと議論も拡散しており、反対に「○○を州都にするために必要なステップは」という妙に具体的な話もあります。このような話は、主として夜間活発に議論され、日の出とともに霧散し、夕暮れとともに始まり、また・・・を繰り返しています。いよいよ、土佐人の出番にふさわしい、混沌とした状況が出現するでしょう。

香川支部総会の模様（2005年度）

当支部にも、私を除き、優秀な土佐人はたくさん居ますが、鹿児島や山口と同じく、郷里よりも都に多くの逸材が集まっていると思っています。ぜひ、飲みながら「四国はどこに向かうべきか、郷里高知の果たすべき役割は」についてご高説を賜りたいと存じます。その折には、当支部中澤幹事長ゆかりの銘酒、その名も「船中八策」（他の銘酒にゆかりのかた、ごめんなさい）をご用意いたします。そして、優秀でない土佐人のかたは、私と飲んでください。いずれにしても、「関東支部の龍馬」の四国高松入りを、香川支部一同、心からお待ちしております。

お悔やみ申し上げます

41回	野口真伸	H17-12-30
23回	樽井義虎	H17-1-24
30回	堀 愼吉	H15-6-25
16回	池田豊彦	H17-6-7
25回	高崎 望	H16-7-24
15回	島田欣一郎	H17-12-28
27回	丸山億	H18-1-4
30回	中嶋康博	H17-6-11
35回	田村至敏	H18-3
39回	竹前征矢子	H18-1-23

今夏もガーナ高校生 来日!!

公文敏雄（35回生）

学業・スポーツ・伝統文化の英才教育で知られる名門アチモタ高校（首都アクラ所在）を主体とするガーナ高校生一行約20名は、8月20日に来日して東京、高知などに2週間滞在、土佐、麻布、女子学院などわが国を代表する私立高校との交流のほか、日ガ高校生合同チーム「ロッテ・ガーナよさこい連」による原宿スーパーよさこい特別参加（注）、トヨタ、ロッテの工場見学等を予定しています。

高知・土佐高校訪問は3年ぶり2度目で、8月30日から数日間滞在、ホームステイも交えた交流を企画中。

35回生の浅井和子前駐ガーナ大使らを中心とするOBグループ「ガーナよさこい支援会」（都内連絡先03-3234-3838）が、受入れ全体の調整に汗を流しています。

（注）8月27日正午表参道欅並木行進トップスタートほか。「原宿スーパーよさこい祭り」情報は、お祭りホームページ http://www.yosakoi-harajuku.com/ をご参照ください。

上岡 將人（70回生）

現在、新宿にある、松山・高矢・牧野特許事務所で働いています。弁理士という職業は、あまりなじみのない方が多いかもしれません。弁理士は、発明や商標等について、特許権、商標権等、いわゆる知的財産権を取得するために特許庁に対して行う出願手続の代理や、権利侵害訴訟における補佐人又は訴訟代理人としての業務を行うための国家資格です。対象が、土地等の有体財産と異なり、無体財産ですので、出願書類の書き方によって、権利範囲が変わったり、権利取得の成否が決まります。そのため、一語一語に神経を使いますが、責任を感じるとともに、遣り甲斐のある仕事だと思います。理系出身の弁理士は特許出願を、文系出身の弁理士は商標登録出願を手がけることが多いようです。人数の割合としては、前者が8割、後者が2割といった感じでしょうか。

特許出願では、実験レベルでしか実現していないような、最新の技術を扱うため、その理解をするために、常に自己研鑽（勉強）が必要です。大学時代の教科書を見返すことも多く、もっと勉強しておけばよかったと、日々思っています。ただ、試験のための勉強と違って、必死に暗記をするようなことはありません。技術の動向を調べたり、内容が理解できれば大丈夫です。試験のための勉強はつらいものですが、知識欲を満たすための勉強は楽しいものだと最近思うようになりました。それに、出願から数年後に実用化されるような発明も多く、少し先の未来を覗けるような、そんな気分になることもあります。ただ、出願内容が公開されるのは、原則として出願から1年6月後ですので、その間は守秘義務があり、残念ながら内容をお伝えすることはできません。

日本で取得した特許権等は、日本国内にしか効力が及びません。そのため、外国においても発明等の保護を実現するためには、外国で権利を取得する必要があります。幣所でも、外国への出願は多くあります。私自身はまだ手がけていませんが、主にアメリカやヨーロッパ、そして最近は中国への出願が増えています。現地代理人とのやりとりは、当然外国語で行うため、語学力も必要になります。そのため、外国と関わる仕事がしたい人には向いていると思います。

弁理士

弁理士は、以前に比べるとかなり増えましたが、現在、全国で七〇〇〇名弱と、士業としては少ない方です。そのうちの7割以上が東京、大阪等の大都市圏に集中しています。その分、地方では少なく、高知県には2名しかいません。高知県の産業は中小企業が多く、大企業に対抗するためには、特許権を取得することが有用だと思いますので、弁理士の数はもっと多くともよいだろうと思います。私も将来は、高知県の産業の発展に貢献できるようになりたいと思っています。

以上、いろいろとご説明させて頂きましたが、私自身、弁理士になろうと思ったのは、大学を卒業して社会人となってからでした。前職は、ソフトウェア開発会社に勤務しており、主に携帯電話内のＯＳの開発をしていました。もっと幅広い技術に触れたいという思いや、自己の裁量で進められる仕事がしたいという思い（残業が多くて大変だったのもありました）から、この職業に就いたわけですが、もともと文章を書くことが好きだったこともあり、楽しく仕事をさせて頂いています。今学生の方で、特に理系の方は、将来の職業の選択肢の一つに加えてみてはどうでしょうか。

次に、一日の仕事の流れをご紹介させて頂こうと思いましたが、主に特許出願の書類を作成しているため、一日中机（パソコン）に向かっている状態で、あまり面白くありませんので、今回は、商標権についてお話させて頂きたいと思います。

私たちの周りで流通している製品やサービスの殆どには、ブランドマークなどの商標がついています。多くの企業名や商品名等は商標登録されていると考えてよいでしょう。商標権は、簡単に言えば、指定商品（役務）について、商標を独占的に使用できる権利です。商標とは、商品等に付される文字や図形のことを言い、指定商品（役務）とは、その商標を使用する商品やサービスのことを言います。第三者は、その商標と同じ商標はもちろんのこと、その商標に似ている商標も使用することはできません。ただし、指定商品（指定役務）が似ていなければ、使用できます。具体的には、新聞について「朝日」を登録すれば、第三者が週刊誌「アサヒ」を販売することを禁止できます（新聞と週刊誌とは、同じ「印刷物」どうしなので、類似商品です）。逆に、新聞について「朝日」を登録しても、第三者がビール「アサヒ」を販売することは禁止できません（新聞とビールとは、類似商品ではありません）。

商標登録をしても、それが普通名称化してしまうと、商標権の効力が弱くなってしまいます。登録商標の普通名称化の例としては、「エスカ

レーター」、「セロファン」、「うどんすき」があります。今となっては、他の言葉で表現しにくいですね。普通名称化していませんが、「味の素」（味の素社）、「宅急便」（ヤマトホールディング社）、「ジープ」（ダイムラークライスラー社）、「エレクトーン」（ヤマハ社）、「ポリバケツ」（積水化学工業社）、「万歩計」（山佐時計計器社）等も登録商標です。こういうことは、ＮＨＫで前記登録商標が放送されないことで気づかれる方もいらっしゃると思います。

登録商標や出願中の商標を探すことは、インターネット上で簡単にできます。特許電子図書館（http://www.ipdl.ncipi.go.jp/）の商標出願・登録情報を見てみましょう。例えば、検索項目選択を「商標（検索用）」、検索キーワードを「?高等学校?」と入力して検索してみます。ここで？（クエスチョン・マーク）を挿入するのがポイントです。これを入れることで、「高等学校」を含む商標を検索することができます。この検索結果等から、「灘高等学校」、「開成学園」、「麻布高等学校」といった中高一貫の私立学校が自己の学校名を商標登録していることが分かります。指定役務は「高等学校における教育」となっています。おそらく、似たような名前の学校が作られることのないよう、商標登録をしているのだと思います。そう考えると、確かに知名度の高い学校名というものは、無体財産だと言えます。「土佐高等学校」も、全国的な知名度はありますし、商標登録をするに値すると思いますが、いかがでしょうか。

私の経験ですが、東京で出身高校を人に伝えると、高知県の中高一貫の某私立学校とよく間違えられます。某私立学校は東京でも中学受験、高校受験を行っているため、知名度が高いのでしょう（昨年度は２０００人以上の東京の小学生が受験したそうです）。もし、「土佐高等学校」を商標登録しておけば、似た名前にすることはできなかったかもしれませんね。

ふるさとへの手紙（七）

早稲田大学一年　森本　洋平（81回生）

土佐高校を卒業して、はや3ヶ月。まだまだ東京の生活には慣れておらず、新鮮な毎日を送っています。現在はまだ授業が始まって1ヶ月しか経っておらず、大学の授業についていくことに必死です。しかし、その中でも大学で新しく出来た友達と過ごすことは今後の自分に役立つと思っています。

土佐中学、高等学校で過ごした6年間はあっという間であり、且つ充実した日々でした。中学の時に特に印象に残っているのは中学3年の時の合唱コンクールでした。あんなにクラスが一致団結して何かをするというのは初めてで、みんな必死に練習していました。残念ながら僕のクラスは優勝出来ませんでしたが、この合唱コンクールで友達との協調性の大切さなどを深く学んだと思っています。

高校に上がり、本格的に夢や大学について考え始め、自分が一体将来何をしたいかなどを考える日が増えました。しかし、いまいち自分の夢も見つけられず、部活に熱中する毎日でした。中学3年から始めたバドミントン。ほぼ毎日きつい練習をしてつらくなって辞めたいって思った事も多々あり、顧問の先生にも様々な迷惑をかけたと思います。でも、高校3年の県体までチームメイトと必死に練習して、団体は惜しくも準優勝でインターハイに行けなかったのが悔しかったですが、この必死にやった3年間はいい思い出となり、これからの自分の糧になったと思います。

高校の時に印象に残っているのは、修学旅行と高校3年の体育祭でした。修学旅行では新潟でスキーと東京に行って様々な体験をしました。東京ではディズニーランドに初めて行き、興奮しっぱなしだったことを覚えています。また日本科学未来館に行き現在世界中で使われているメールの仕組みについて勉強したことを今も覚えています。

↑右筆者と。友達の先生、いつも馬鹿騒ぎした友達、今までお世話になった方々、皆さんがいたからこそ今の自分があると思っています。これからもいっそう勉学に励み、自分の夢を実現出来るように頑張りたいと思います。

↓大学の食堂

高校3年の体育祭は今まで中1からやってきた体育祭と比較にならないほど忙しく、また意味のある体育祭でした。5年間圧倒され続けたやぐらを自分達だけで作れるのかなど不安は数え切れないほどありました。夏休みの始めから部品を作り始め、みんな受験勉強で大変だというのに集まって必死に部品を作ったことを今でも鮮明に覚えています。次第に頭にあった不安など忘れて無我夢中になって作り、体育祭前日に完成したときは何とも言いようがないほど感動しました。僕は紫のキャプテンということで当日の開会式で行進をさせてもらい、これももう二度と体験出来ない思い出です。

そして忘れてはいけないのは卒業式です。この日は1日がとても長く感じられる1日でした。朝、学校に行くともう記念写真を撮っている友達もおり、改めて自分が卒業することを認識させられました。そして、卒業式が終わり、担任の先生に卒業証書を1人づつ取りに行く時、友達で泣いている人もたくさんいました。もらい泣きをしてしまいそうでしたが僕は担任の先生から渡される時に言っていただいた言葉をしっかり聞こうと思い我慢しました。

コラムに収まらないほどまだまだ思い出はありますが、こういう思い出が出来たのも土佐中学に入ることを勧めてくれた両親、どんなに僕が反抗的な態度をとってもいつも優しい言葉をかけてくれた担任の先生、いつも馬鹿騒ぎした友達、今までお世話になった方々、皆さんがいたからこそ今の自分があると思っています。これからもいっそう勉学に励み、自分の夢を実現出来るように頑張りたいと思います。

岡崎のおんちゃんの思い出話

23回生　岡崎昌生

今年二月、七十六歳となり、いわゆる古希を過ぎること六年。この数字からみれば、立派に老人の部に入るが、気分は若く、まだまだ「明日がある。」と希望を持っている。

昭和一七年(一九四二年)土佐中に入り、一九五〇年(以下、西暦による)東京に出てきた。当時、先輩の一回生はまだ四十代前半、社会の中枢で活躍されておられた。その後、先輩・同窓の方々のお世話様になりながら、すでに五十年あまりを経過した。

この間、わが国は、戦後の混乱・貧困を脱し、56年の政府経済白書では「もはや戦後ではない。」というキャッチフレーズが用いられた。以後、多少の景気変動はあったが、社会経済は順調に発展・成長し、64年には、東海道新幹線の開業、東京オリンピックの開催、そして、70年の大阪万博へと続く。

73年の石油ショック（OPECの石油公示価格の値上げ）も乗り切り、高度成長路線を走っていたが、80年代後半になって、地価・株価などの異常な高騰をみることとなる。

一九八九年(昭和六四年)一月、昭和天皇崩御、皇太子明仁天皇即位され、一月八日、「平成」と改元された。

同年末、東証平均株価は、最高の三八、九一五円をつけたものの、翌90年に入り急落、バブル経済は崩壊、その傷跡は各方面に残り、世は不況に苦しみ、その修復に十年あまりを要した。

この半世紀、私自身の来し方を顧みるに、何も世の中の役に立たなかったと自省の念のみであるが、記憶に残っていることを綴れば、

○人間一生五十石

学校を出て、公務員となり、見習事務官として国税局で、部内広報紙を担当し、税の第一線の仕事を通じ税についての勉強をしていた。そのころ、お酒の先生（国税局酒類鑑定官・随筆家でもあった）の知遇を得、表記の言葉を教わった。意味は相当な飲べえでも一生にせいぜい五十石ということ、五十石は一升(1・8リットル)ビンで五千本、大きな数字であるが、五十年飲むとして一日平均三合弱、まんざらでもない量である。私自身すでに終了したかもしれない（他酒類との換算率）。

○税務署とエチオピア

私は、寒さが好きでないので勤務地としては常に「西南の方」を希望してきた。その希み通り、山口県の日本海側の長門という港町に赴任し、農業、漁業を営む地方経済の勉強をしたが、何よりも嬉しかったのが新鮮な多種類のサカナであり、これは高知に並ぶ。二年間ゆっくりと楽しんだ。

東京に帰り、しばらくして今度はエチオピオへ行くようにとのこと、西南の方角に違いはないが、唐、天竺の向こうである。

エチオピアは、高原の国であり、コーヒーの原産地、穀類（粟のようなテフという主食）、ゴマなど農産物、そして、牛は多く、羊、山羊、鶏も多く、豊かな農牧国だった。

当時は、ハイレセラシエ皇帝は御健在で、その威令はすみずみまで届いていた。国教はキリスト教(コプト派)であるが、イスラムも多い。67年の第三次中東戦争のとき、皇帝は「わが国はアラブの海に浮ぶキリスト教の孤島である。厳正中立(strictly neutral)を守る。」とラジオで言われたのを覚えている。

近隣のケニヤ、エジプトそしてベイルートには会議などで数回訪れた。

最近、これらの地域が、時々、テレビ、新聞に登場するが、土地勘があるのは有難く思っている。

○帰国後

国際金融の仕事、企業など何が専門か、フリーターの如く働いたが、98年ガンを宣告され、それを機会に無業となった。ガンは、土佐高同窓のお医者さん方のおかげ様で、手術後八年たつが再び現れない。

現在、横浜の南はずれの駅前アパートに住んでおり、週一回の会合、一日一万歩目標、そして一日二合かぎりとしている。行く末は人様に御迷惑をかけないよう、また、老醜、老残をさらすことのないよう心がけたい。

◇筆山会新会長に岡崎さん

1月23日開かれた筆山会新年会で、会長が吉澤信一さん(16回)から岡崎昌生さん(23回)に交代した。

故倉橋由美子氏(29回)に明治大学が特別功労賞贈る

昨年六月に亡くなった作家の故倉橋由美子さん(29回)に明治大学の特別功労賞が贈られた。贈呈式は次女のさやかさんら遺族が出席して六月十六日、明治大学リバティホールで行われた。式の後、中山和子氏（元明治大学文学部教授）が「『パルタイ』をめぐって」、加賀乙彦氏（作家）が「倉橋由美子の文学」と題する記念講演を行った。

明治大学特別功労賞は同大学卒業生の中から社会的に貢献した人に与えられる。これまでに星野仙一氏、石津謙介氏等24人が受賞している。

倉橋さんは在学中に『パルタイ』でデビュー以来、女流文学賞、田村俊子賞、泉鏡花文学賞等を受賞した。同大学中央図書館では「倉橋由美子展」を七月六日まで開催。自筆原稿や遺品などが展示された。

功労賞を授与され、遺影に報告する次女のさやかさん

スマートないごっそう（最終回）

二十四回生　山中和正

幸福論

私はカミさんと時折口喧嘩をする。私がちょっとおかしいことを言うと、カミさんから鋭い突っこみが入る。それにまともに返事をしていると、元の話の本題から外れ、口喧嘩に発展することが多い。思うに、二人ともかなりのモガリなのであろう。それに、甘やかされて育った私にはグサリとくるくらい彼女の突っこみはきつい。

しかし、彼女はなかなかいいカミさんである。かわいいし（昔は）、健康で働き者である（今も）。若い頃の厳しい家計を、工夫と努力でよく支えてくれた。感謝している。いい嫁に当たったと思っている。エッ、のろけるなって？

イエイエ、人はいい面をしっかりと見れば、いい人だと思い込めるという例を示しているだけです。

能天気な私にも悩める青春時代があった。生意気にも、『人は何のために生きるのか』と考えたこともある。答えは『幸福の追求』なのではないかと思った。『最大多数の最大幸福』と言う言葉に共感した。そのためには、『まず各人が自己の幸福を追求すべきだ』と言う説にも同意した。しかし『幸福とは何か』との命題の答えは見当たらなかった。私の稚拙な頭脳は抽象的な思考には向かない。幸福論の肝心な点を棚上げにしたまま、人生も老年を迎えた。

最近になって、この命題の一つの解答を見つけた。あるテレビ番組を見ていたときである。ニュースのコーナーで、ひとりの障害者を取り上げていた。彼は脳の発育に障害を持っていたが、市役所の受付けの補助として生き生きと仕事をしている。市民の問い合わせに答えられないことも沢山あるが、明るく親切で市民の評判もすこぶるいい。そして上司は、「彼に、『大変だね』とか『かわいそうに』とかの同情の言葉をかけないで下さい。彼はあれで幸せなのですから」とコメントしていた。彼は彼なりに、『自分は幸福だ』と思い込んでいるのである。このことから私の思いついた結論は、『自分の幸福は、自分で幸せだと思い込むこと』である。

私の人生も、「いい嫁にめぐり合って、幸せだった」と思っている。イヤ、思い込んでいる。これが70才にしてたどり着いた私の幸福論である。同窓生の皆さんも何とかして自分の幸福を思い込んで下さい。そして、みんなが幸せになれば、きっと幸せな世界が来ることだろう。こんな下らない話を最後に、私の4年続いた連載を終わらせてもらいます。ご愛読有難うございました。

いごっそうの一言

年賀状を書きながら相手の年令を計算した。このとき、大正、昭和、平成の西暦換算が出来ると楽である。この換算のキー数字を「いい（11）、双子（25）の、パパ（88）」と覚えている。すなわち、大正の年号には一九一一を、昭和には一九二五を、平成には一九八八を加えると西暦の年号になるということである。これを使ってざれ歌を作ってみた。

『いい大将（大正）、昭和は双子の、パパに成（平成）り、そして明治は、むな（67）しき昔』

（明治の年号には一八六七を加える）

写真の説明

『年を取ると子供に返る』と言います。これが本当かどうか。生後11ヶ月と76歳の私を並べてみた。

幸せな二人は四国八十八箇所所を巡っている。

土佐中・高等学校30回生関東同窓会　実施

田所鴻一（30回生H）

二〇〇五年11月5日（土）高知で30回生の卒業50周年同窓会後、Kホームの方が、Kホーム主幹事崎岡順一さんに、関東でも同窓会を開催して欲しいと要望があり、崎岡さんより、Hホーム幹事田所鴻一・Oホーム幹事梶田廣人さん・Sホーム幹事須藤土佐彦さんに連絡が入り、今回の会合が立ち上がりました。

そして、3月23日（木）青山ダイヤモンドホールにて、「土佐高校卒業50周年」と「古希」を兼ねて、30回生の関東同窓会を開催いたしました。総勢40名の多数が参集してくださり、盛大な会となりました!!

うち女性が、6名参加してくださいました!!日本全国に在住する30回生の一部には、何回も電話等を掛けたりした結果、6名は、関東以外の広島・高知・兵庫（2人）・静岡（2人）からはせ参じて下さいました!!

アトラクションも、救急車を呼ぼうかなと思うほど上手な手品あり、上手な歌ありなどで、大盛り上がりの内に、無事閉会となりました!!

今回の会合は、表参道の外資系ブランドビルなど立ち並ぶ、青山ダイヤモンドホールで開催されましたが、このホールは、明治安田生命系結婚式場ビルで、明治生命OBの崎岡さんには、会場について大変お世話様になりました!!

またKホームの鍋島高明さんは、印刷で大いに貢献してくださり、他ホームの幹事も協力一致して終えることが出来ました!!

★出版レーダー★

公文俊平（28回生）
「地域情報化　認識と設計」（編集）
ＮＴＴ出版　三七八〇円　2006.04

倉橋由美子（29回生）
「大人のための怪奇掌篇」
宝島社　一六八〇円　2006.02
「星の王子さま―新訳」（翻訳）
宝島社文庫　五〇〇円　2006.05

鍋島高明（30回生）
「相場ヒーロー伝説 -ケインズから怪人伊東ハンニまで」
河出書房新社　二一〇〇円　2005.12

田島征彦（34回生）
「じごくのそうべえすごろく」
童心社　一〇五〇円　2005.10

大橋一章（36回生）
「法隆寺・薬師寺・東大寺 論争の歩み」
グラフ社　一六八〇円　2006.03

野田正彰（37回生）
「［麻原死刑］でＯＫか？」
ユビキタスタジオ　一二六〇円　2006.04

市川忠彦（39回生）
「新版　脳波の旅への誘い［第2版］」
星和書店　二九四〇円　2006.04

塩田潮（40回生）
「対論・自治改革―地域主権への挑戦と実験」
時事通信出版局　一六八〇円　2005.10

西村繁男（40回生）
「みんなのきもち」
新しい日本の幼年童話」（絵）
学習研究社　一二六〇円　2006.03
「おでんさむらい―こぶまきのまき」（絵）
くもん出版　一一五五円　2006.01
「チータカ・スーイ」（絵）
福音館書店　一二六〇円　2006.01

黒鉄ヒロシ（41回生）
「清水の次郎長〈上〉〈下〉」
ＰＨＰ文庫　一〇〇〇円　2006.02

杉山雄一（41回生）
「臨床薬理に基づく医薬品開発戦略」（編纂）
廣川書店　五二五〇円　2006.05

宮岡等（49回生）
「統合失調症の前駆期治療」（翻訳）
中外医学社　三一五〇円　2006.04

森岡正博（52回生）
「自分と向き合う「知」の方法」
ちくま文庫　六七二円　2006.05

森岡浩（55回生）
「名字の日本史」
ビジネス社一〇〇〇円　2005.12

廣瀬裕子（Ｐ・Ｎ・高遠裕子）（60回生）
「インポッシブル・シンキング 最新脳科学が教える固定観念を打ち砕く技法」（翻訳）
日経ＢＰ社　二一〇〇円　2006.04
「楽して、儲けて、楽しむ 80対20の法則 生活実践篇」（翻訳）
阪急コミュニケーションズ　一六八〇円　2005.09

ここからは雑誌に掲載されています

島田裕之（33回生）
「南極海におけるヒゲクジラ類の鳴音調査・研究の動向」
勇魚．42　16-23　2005
「老年学的立場から」
臨床スポーツ医学．22(-)　臨増　30-35　2005

田島征彦（34回生）
「素晴らしき染織対談(10)北淡の地でマルチ作家ぶりを発揮する ゲスト 染色作家 田島征彦さん」
月刊染織α．298　42-47　2006

岡村甫（32回生）
「学長として何ができるか」
IDE．477　17-20　2006

大橋一章（36回生）
「アジア地域文化エンハンシング研究センター」
日本歴史．692　145-147　2006

野田正彰（37回生）
「緊張と抑うつ 閉ざされた不安から開かれた対話へ ―日本社会の「気分」をめぐって」
世界．749　86-93　2006
「庭園 ― 日本文化の理想の空間」
本の窓．28(9)　12-17　2005

塩田潮（40回生）
「「退き際」研究 変人宰相小泉長期政権の「最後の1年」を占う 周倒な「求心力維持計画」を脅かす「危険な法則」」
ニューリーダー．18(12)　8-11　2005
「特別研究 「郵政解散」で「信を問う」小泉挑戦の歴史的意義 自民党を解体・創造し「究極の政治構造改革」狙う」
ニューリーダー．18(9)　8-12　2005
「FOCUS政治 「国のかたち」と財政危機をどうするのか」
週刊東洋経済．5987　134-135　2005
「FOCUS政治 「自民勝ちすぎ」後の政治展開 道路特定財源改革というもう一つの「爆弾」」
週刊東洋経済．5981　116-117　2005
「FOCUS政治 ほの見えてきた「死に体化」の兆候 時間との戦いで苦境 心は完走の一点のみ」
週刊東洋経済．5992　132-133　2005
「FOCUS政治 竹中・中川コンビで影響力保持を狙う小泉」
週刊東洋経済．5998　112-113　2006
「FOCUS政治 満4年の長期政権の裏で小泉内閣立ち枯れ論 郵政民営化巡る戦い暴走で中央突破も」
週刊東洋経済．5933　118-119　2005
「FOCUS政治 07年参議院選挙へ民主党復活なるか」
週刊東洋経済．6004　104-105　2006
「今月のヒューマンストーリー 大衆演劇のメッカ「嘉穂劇場」復興のドラマ(上)」潮．551　266-273　2005
「今月のヒューマンストーリー 大衆演劇のメッカ「嘉穂劇場」復興のドラマ(下)劇場の灯を守った女性劇場主の「ときめく恋心」」潮．552　326-333　2005
「選挙後の政権と政治の行方」
日本工業倶楽部木曜講演会講演要旨　245　1-41　2005
「竹中平蔵の挑戦 ― 政治を目指した学者の軌跡(中)政策の決定権を巡る霞が関との攻防戦」
論座．127　111-121　2005
「竹中平蔵の挑戦 ― 政治を目指した学者の軌跡(上)学界の閉鎖性が生んだ独自の道」
論座．126　105-115　2005
「竹中平蔵総務相インタビュー」
論座．128　137-139　2006
「竹中平蔵の挑戦 ― 政治を目指した学者の軌跡(下)自らを実験台に進む政界改革の行く末」
論座．128　126-136　2006

杉山雄一（41回生）
「TOPIC. SCIENCE 肝臓における薬物解毒システム ― トランスポーターを中心に」
Human science．16(5)　12-17　2005
「テーラーメイド治療の将来」
精神科．7(5)　399-404　2005

高山宏（42回生）
「男子アンケート ファム・ファタル？女友達？サークル・クラッシャー？僕たちの好きな文化系女子！」
ユリイカ．37(12)　212-224　2005
「アンケート大会 わたしを がつくった雑誌」
ユリイカ．37(8)　159-179　2005
「「擬(まが)いの西洋舘」のト(ロ)ポロジー ― 『明暗』冒頭のみ」
漱石研究．18　61-72　2005

大塚寿昭（43回生）
「情報セキュリティの現状と体系的・総合的対策 ― 情報セキュリティ・アーキテクチュア」
Estrela．142　2-9　2006

宮岡等（49回生）
「うつ状態とうつ病診断の変遷」
こころの科学．125　61-64　2006
「精神科臨床におけるＥＢＭの意義と今後の課題」
ＥＢＭジャーナル．7(1)　122-126　2006
「専門医を目指す人の特別講座 精神症状把握のための面接」
精神神経学雑誌．107(8)　897-900　2005
「頸肩腕症候群における心理的要因 ― 痛みに対するアプローチを含めて」
Monthly book medical rehabilitation55 9-13 2005
「医師は心理士に何を求めるか ― 日本心身医学会認定医療心理士制度に向けて」
心身医学．45(9)　675-678　2005